

たばこは
市内で
買いましょう

1箱(150円のもの)
につき24円25銭が
市の収入になります。

大報 おおだて

6月臨時号 (No.252)

編集と発行 — 大館市役所
(電話)42-1212
発行年月日 — 昭和53年6月15日
発行日 — 毎月1日

広報紙は、行政協力員を通じて全世帯に配布
しています。届かなかったり、配布が遅い
ときは、総務課秘書広報係へご連絡ください。

昭和43年3月1日第3種郵便物認可(1部5円)

市立総合病院 創立100年を盛大に祝う

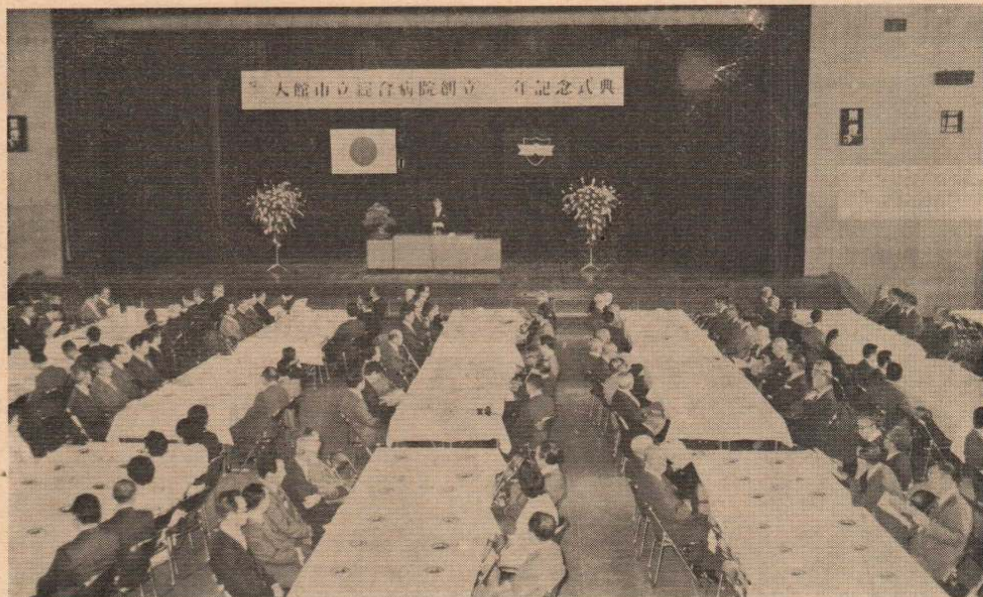
市立総合病院は、前身である私立大館病院として創設されてから今年で100年目を迎え、この由緒ある病院の生長を祝う式典が5月26日市民体育館で行われました。

式典には弘前大学、東北大学、秋田県からの来賓と病院関係者約700人が列席し、石川市長の式辞、福井院長の挨拶そして佐々木県副知事をはじめ来賓の祝辞と、式は100年の歴史と伝統にふさわしく荘厳のうちにすすめられ、続いて祝電の披露、そして感謝状の贈呈が行って終了しました。

当市立総合病院は、明治12年5月に大館町在住の医師・川瀬玄探ほか7氏の主唱により創立された私立大館病院がその歴史のはじまりです。

以下、当病院のあゆみをご紹介します

- ・明治12年5月
馬喰町に「私立大館病院」を創立
- ・明治15年12月
同病院を廃止、東大館町ほか49カ町村連合体組織による「公立大館病院」として発足
- ・明治17年
末加入町村の加入勧誘により、100町村連合の病院組織に拡大、米内沢村に最初の分院を設置
- ・明治20年
病院建物の老朽と患者の増加に伴い新築する
- ・明治21年12月
名称を「北秋田郡公立病院」に改める
- ・明治22年8月
地方制度の町村制実施に伴い、大館町ほか10カ町村組合で、再度名称を「公立大館病院」に変更



- ・明治32年
病院敷地を拡張して、建物を改築、その後大正に入ってからも数回にわたり大幅改築を行う
- ・大正15年10月～昭和2年10月
三の丸地内に移転のうえ、入院患者70人収容の延面積4,290㎡の病院を新築する
- ・昭和28年4月
137戸に及ぶ大火で病院施設を全

焼したが、復興計画により三の丸から現在地の豊町に移転し、驚異的な速さで再建される

- ・昭和30年
町村合併により、病院組合の構成は大館市、花矢町、田代町の1市2町となる
- ・昭和41年2月
膨大な累積赤字により組合病院を解散、大館市がその全施設及び債権、

債務その他一切の事務を承継し、「大館市立総合病院」として発足

- ・昭和42年度～45年度
建物の狹隘、老朽及び医療設備の近代化と充実の必要上、4カ年事業として病院新築を行い、地下1階、地上6階の現病院を完成して現在に至る



市長
石川芳男

近代日本の夜明け「明治の維新」より僅かに12年、東北の辺境にも漸く爽やかな初夏が訪れようとしている5月、私達の町大館に医業を営む川瀬玄探、木村謙斎外6人の先覚者が、激動の劇しい時勢の洞察と刀圭家として果すべき役割の重大性を痛感せられ、病院設立に因って地域の医療を担当し民生安定に資すると言う、当時としては画期的な発想の下に、私立病院を開設せられましたのが今日の大館市立総合病院の嚆矢であります。

今年、丁度100年目に相当致します。この一世紀は、我が国にとって正に狂乱怒濤の時代と言っても過言でないと思えますし、大館病院の歴史も又決して平坦な道ではありませんでした。幾度か危



機に直面し、解散寸前に追いこまれたことや、火災で全施設が灰塵に帰したこと等記憶に新たなものがあります。

冷静にして賢明なる先人が、その都度この病院を護るため払われた大いなる努力が、今日のこの輝かしい日を迎えることになりました。

私は、改めて創業期の諸先賢の勇氣と決断、そして守成よく今日までこの病院を育成せられました関係諸先輩に深甚なる敬意を表したいと存じます。

愈々医療を巡る諸問題が厳しい時、100年の記念式を迎え、地域医療を担当する機関としての責務の重且つ大を自覚し、使命達成に全院挙げて当たりたいと存じます。

創立100年を迎えるにあたりこの長い歴史のあとを振り返りますと、今日の病院に至るまでの様々の出来事が思い浮かび誠に感慨に堪えないものがあります。この一世紀の間医学の進歩は目覚ましいものがあり、病院建物も欧米なみに立派になり、さらに医学教育、看護教育、医療制度、社会保障制度等は100年前には想像もつかないほどの進歩と思われ

ます。しかしながら、昭和2年に健康保険法の一部が施行された際に、医師の診察料に比し手術料及び薬価等の割合が極めて高位にあったと指摘された不合理性が、現在もおおその基本的な改善が叫ばれ続けており、50年かかってこのような重要なことがあまり改善されていないことに驚かざるを得ません。このように今日の医療にとって依然として改善されていない部分があるようにも思われ、進歩とは何かと考えますと些か複雑な気持ちにならざるを得ないところです。

科学の進歩は逆に科学への不安と懐疑とを醸成していると言われており、医学についてもその知識と技術の進歩が、人間の自然的存在そのものの根底を揺るがすような作用を持ち始めたことについての不安があります。

すなわち臓器移植、遺伝子移植あるい

院長
福井新



はその組替え、胎児人工培養、向精神薬などにみられる技術は、人間の精神や遺伝形質に人為的な干渉を加えることを可能ならしめようとしているようです。

今日これらに対し各分野から何んらかの制御の努力が集められる必要があります。

医療は、今日、健康増進、予防医学、治療医学そして社会復帰を包含する包括医療でなければならないことが世界的に合意されております。

このような認識に立って地域医療のパターンが形成されなければならないと思われまふ。これからの病院は、このような理念に立ち住民の健康生活に関する多くの知見を集め、全職員一丸となって地域医療の責任を果して参る所存でございます。